

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

# 文化高知

2016年3月 NO.190



【もくじ】

- 2~3 オペラへようこそ…西村知紗
- 4~5 ピノキオさんの生まれた国で（第二回）出会いと移動を重ねて辿り着く場所…並河咲耶
- 6~7 オークランド（ニュージーランド）個展旅日記①…西悟
- 8~9 高知を解く③「地域（高知）型」政策のつくり方…福田善乙
- 10~11 高知県のムラサキオカヤドカリ覚え書き(II)…町田吉彦
- 12~13 高知市文化振興事業団12月~1月の事業から
- 14~15 風俗歳時記・風伯

# オペラへようこそ



西村 知紗

縁あって現在私は、公益財団法人日本オペラ振興会というところで働いています。ここには、西洋と日本のオペラを上演する二つの部門がありますが、そのうちの西洋部門「藤原歌劇団」はテノール歌手藤原義江により創立され、二〇一四年には八十周年を迎えた、日本で最も歴史ある歌劇団です。ですが、こういったオペラ団が日本に存在するということの認知度の低さを感じることがよくあります。

オペラと言っても、見たことがない方にとっては敷居が高く思われがちですし、上演数も決して多くはないので、なかなか足を運ぶきっかけがないのではないのでしょうか。知人にオペラの話をして、「見たことない」「オペラって

何？」という反応が多く、なかなか興味を持ってもらえませんが、私自身もこの仕事づくまでには同じ印象を持っていました。

ですが実際、オペラと仕事として接するようになり徐々に魅力を感じ、今では少しでも多くの方に楽しんで頂きたい、広めたいと思っています。そのためにも、体全身で感じるオペラの魅力についてお話ししたいと思います。

よくオペラは「総合芸術である」と言われますが、その言葉の通り、歌、演技、オーケストラ演奏に加え、舞踊、衣裳、照明、舞台装置など芸術に必要とされるほとんどの要素で成り立っています。なんといってもこれらすべてを一度に味わえるのがオペラの醍醐味だと思います。その中でも、オペラの

魅力といえば「生の声」です。オペラでは基本的にマイクを使いません。オペラ歌手はマイクを使わなくても広い劇場の中で、声を響かせる発声テクニックを身につけているのです。

オペラの歴史は一六〇〇年代にまで遡ります。日本ではちょうど歌舞伎が誕生したのと同じ頃だと言われていますが、もちろんその当時はマイクなどの音響設備は整っていませんでした。そのような環境の中で声を響かせる技術が生まれ育ったのが、現在オペラで発声法として用いられるベルカント唱法、ドイツ唱法などです。

ベルカントとはイタリア語で「美しい声」。腹式呼吸のせて喉に負担をかけずに、自然な発声で歌う技術を指します。例えば、怒っ

が出来ます。中でも有名な「椿姫」は高級娼婦ヴィオレッタの愛と運命が描かれたお話、「カルメン」は恋多きジプシー（現在ではロマと呼ばれる）女の人生を描いたお

話、シエイクスピアの戯曲がもととなった「オテロ」など、背筋のぞつとするようなサスペンスから心温まるラブ・コメディまで様々

オペラではこれら物語の喜怒哀楽すべてが歌で表現されます。それとともにオーケストラが奏でる音楽がより一層物語を盛り上げます。単独でも素晴らしい物語たちが歌と音楽によってまた新しい感じ方を皆さんに届けられる、これもオペラにしかない魅力だと考えています。

ならば実際にオペラを見てみよう！と思った時、大きなハードルとして考えられるのは言葉の問題です。有名作品の大半は外国で生まれたものですが、「見ても理解が出来ない」と思われることも当然だと思います。

ところが、近年のオペラ公演では字幕付きのものも多く、まるで映画を見ているかのように楽しむことが可能なのです。また、「鶴の恩返し」が元となった「夕鶴」や、

土佐に伝わる物語「純真お馬」を原作とした「よさこい節」など、日本人によって書かれた作品も多く上演されています。また、敷居が高いと思われるオペラ、それはチケットの価格と豪華できらびやかなイメージを持たれているからでしょうか。よく「チケット代が高い！」「ドレスなんて持っていない」という声を聞きます。海外から本場のオペラを輸入しているような引越越し公演では三万円、五万円を超えるチケット価格も当たり前存在します。



2009年日本オペラ協会公演「夕鶴」

ている時、目の前にいる相手に大きな声で物を言う「大声」と、山の中でやまびこに話しかける「おーい」という発声、実際にやってみると喉の力の入り方と響きの違いがよく分かります。どちらからかというベルカントの発声は、この「おーい」という響きに近いものです。

もちろんこの他にも基礎的なテクニックを多々勉強し体に覚えさせるのですが、この技術を正しく身につけると、二人近く収容するような劇場で、さらに何十人にもよるオーケストラの演奏が鳴っているも歌手の声は会場の隅々まで響き渡ります。強音ももちろんですが、ピアノシモと言われる弱音で歌われる声でも、澄み渡った美しい響きが細い一本の糸のよう

に届き、私は何度聴いても鳥肌が立ちます。テレビやラジオ、最近では映画館でもオペラのライブビューイングなどが鑑賞出来るようになりましたが、劇場でしか体感できない生の魅力と言えものが間違いなく存在しています。もうひとつ、オペラの楽しみとしてお伝えしたいのが物語です。オペラは「歌劇」とも呼ばれる通りすべての作品にストーリーが存在し、お芝居としても楽しむことが出来ます。

豪華で敷居が高いというイメージが理由で「オペラなんて・・・」と思っている方がいたら、是非身近のオペラ公演から体験していただきたいと思います。オペラは「総合芸術」だと言いました。歌、オーケストラ、舞台美術、衣裳、その全てを一度に体験できることで、オペラは他の芸術よりも強い「非日常感」をもたらしてくれます。オペラだからこそ伝えられる、オペラでしか出会えない感動があると思っています。是非一度、生の声でないと伝わらない魅力、会場でしか感じることの出来ない音の響きを体感してみてください。そして私たちの生活の中で、感性・表現力を高めるひとつの楽しみとして、今後オペラがより広く普及していくことを願っています。

にしむら ちさ

一九八四年生まれ  
昭和音楽大学音楽芸術運営学科卒業。現在、公益財団法人日本オペラ振興会職員。

# ピノキオさんの生まれた国で(第二回) 出会いと移動を重ねて辿り着く場所

並河 咲耶

Buongiorno.

二〇一六年に入ったばかりのマントバよりこんにちは、と言いたるところですが、一月から三月は各地での公演が続きます。この原稿を書き始めたのは仏アルザス地方、ドイツとの国境から車で十分ほどで到着するWissenbourgという町です。アルザス地方と言えば、リースリングやピノ・グリなど、白ワインが有名で、この地方での仕事が決まったときから、ワイナリー巡りも楽しみにしていました。というわけで、新年早々、仕事始めよりも先にワイン購入へ！

高知滞在中も、美味しい地酒を色々試した私達ですが、行く先々でその土地の人達と美味しいお酒やお料理を味わえるのは、この仕事の何よりの醍醐味とも言えます。実際、こうして旅を重ねていると、各地のスタッフとたわいもない話をしながら食事を共にすることも少なくありません。私が何

持つような華やかさや天性の才能は持たずとも、対等に舞台上に立つために努力する、という姿勢を自然と身につけることが出来ました。作曲家が託した譜面の音楽をいかに忠実に表現するかという演奏家としての心得は、通訳者や翻訳者としての現在の私、よりアーティストに近い立場にあるソリストの意向を汲む能力は、舞台の制作者として働く上で非常に通じるところがあると言えます。

奇しくも翻訳業は、中学生の頃に憧れていた職業でしたが、まさかこうして生業の一つとするとは、曲がりなりにも音楽家を志した大学生の頃は全く思っておりませんでした。そこには、素晴らしい出会いだけでなく、屈折や矛盾もあるわけですが、それについては：またにして、後半は楽しいイタリアの様子をお届けしたいと思います！二〇一五年の秋～冬は、とにかく多くの作品を見よう！と、ブレッシャ、パルマ、プラート、モデナ、レッジョ・エミリアなどに足を運びました。特筆すべきは年末に訪れた花の都フィレンツェ。友人の公演を拝見するべく訪れた劇場、Teatro della Pergolaは、一歩足を踏み入れると、まるで宮殿のような艶やかさで、圧倒されました。(HP内には、Googleで見た劇

らかの形で芸術の世界に携わって生きていけたら、と思うのは、こうして様々な土地へ赴き、その土地の人達と関係を築くという楽しみがあるからです。

そんな生活が始まったのは、高校生になってからです。それでもまさかピノキオの国で生活することになるだろうとは微塵にも思っていまませんでした。どうやってここに辿り着いたのでしょうか。今回は自身の自己紹介も兼ねて、その始まりを書くことが出来たらと思います。期待外れかもしれませんが、どうぞお付き合い下さい。



©Elena Baboni

幼小中高一貫校に幼稚園で入学

場というコーナーがあり、ホワイエなども見ることが出来ます。  
[www.teatrodellapergola.com/vistocongoogle/](http://www.teatrodellapergola.com/vistocongoogle/)

また、年間を通して大きな企画展が行われているストロツツイ宮のチケットオフィス前には新湯、越後妻有のトリエンナーレに出品されたというパオラ・ピヴィのこんな作品がドーンと！



街のあらゆる建築物が重要記念物のように見えるフィレンツェ。どこを通っても美しいのですが、クリスマスシーズンということで、クリスマスシーズンという名前で夜になると、市内の複数の名所でプロジェクトションマッピングも行われており、新しいものも貪欲に受け入れて古いものを美しく見せる、そんな心意気も感じました。これは観光客も来るなあと、思わず感心しました。他にもフェラガモやグッチの美術館もありましたが(グッチの美術館は入ってみたら企画展のない期間で、グッチ

し、全ては大学受験のため！と勉学に勤しんでいた私ですが、何を間違えたか、高校一年生でその道から踏み外れてしまいました。なんと、一年間という期限付きでハンパーガー大に留学することになったのです。渡った先の全寮制高校は、まさしく別世界。自然豊かなザ・田舎、人種も性別も多種多様、授業はカテゴリーの中で選択制、制服は無い、ルールはあるけれど、それさえ守れば後は何をしても自由。そして、何よりも私が驚いたのが、みな勉強は当然出来るけれども、必ずそれ以外に一芸を持っている、ということでした。フリスビーの高校全国大会出場者(そんな競技が存在するとは！)、趣味は辞書を読むことと豪語する男子(オタクではなく、女子に大人気)など、奇抜な生徒が多くいることに、愕然としました。その奇妙奇天烈さに圧倒されて、一年ではなく、そのまま居座りたいた、両親・アメリカ、日本両国の先生方に相談し編入への運びとなりました。日本では勉強が出来なかつたわけでも、嫌いだつたわけでもありませんが、この高校三年間で問われたのは、正否だけではなく、答えに至るまでの批評的洞察力や文章構成力。英語というハンデに加えて、慣れない思考回

の様々な鞆や洋服を鑑賞しました(涙)私がお薦めしたいのは、中心街から川の向こう岸の丘の上にあるVilla Bardiniです。広大な敷地内の庭園、館内で行われている展示、そして美術館のテラスから眺めるフィレンツェの町並みは、お天気にさえ恵まれれば、これ以上のもはありません。



坂道をとえつちらおつちら登っていくのは大変ですが、行きはサン・ジョルジョ通りでどんぐりを拾いながら、帰りはベルヴェデーレ通りのオリーブを眺めながらトットコ駆けて：と、子どもと一緒歩いて楽しい道筋でした。周辺には Forte di Belvedere (ベルヴェデーレ要塞・Belvedereとは、眺めがいいという意味です)やポリーポリ庭園もあり、街中の喧噪に疲れた日は川のこちら側でゆっくり過ごすのもいいかもしれません。お昼(飯)は、古き良き食堂 Osteria San Niccolò。トマトベース煮

路。成績は決して芳しいとは言えないものでした。

ただ、新しいことに挑戦したり、一芸を磨いたりするにはもってこいの環境でした。(スキー嫌いの私が、毎週末のようにスノーボードに通い、粘土をひねりに陶芸スタジオに入り浸るような高校生になるとは、到着したその時には思っていませんでした。)日本では、学業以外では、幼少よりピアノ、フルート、マリimba、ハーブ、お琴などの楽器に興味を持ち、習い事や部活として楽しんでいました。この環境で生活しているうちに、私が友人達に自信を持って話すことが出来る一面は、音楽だと感じ、それからは毎日暇さえあれば音楽室に籠り、練習していました。そして、自分よりも格段に才能のあるチェロ奏者やバイオリン奏者の友人達のピアノ伴奏をすることで、誰かと共に一つの作品を奏でること、特にソリストではなく伴奏の面白さに惹かれていきました。

音楽には、言葉は必要ありませんでした。私の当時の英語のレベルでは、大してコミュニケーションも出来なかつたことも功を奏して、相手の癖や呼吸に耳を傾け、彼らの特性に自分の伴奏を擦り合わせていく、そして、ソリストの

込んだ野菜のソースのスパゲッティは：絶品でした！

(おまけ)

ピノキオの生みの親であるカルロ・コッローディはフィレンツェ出身だつたと、ご存知でしたか？そして、コッローディは本名ではなく、彼の母の故郷の農村の名前「コッローディ」に由来しているとか。

なみかわ さや

日本で生まれ、高校・大学とアメリカで異文化の洗礼を受けた後、帰国するも、現在はイタリア在住。合同会社 konjac 代表として、舞台や文化に関わる翻訳・通訳業務、日本へのイタリアのアーティスト招聘事業を行う。イタリアでは、ダリオ・モレッティ氏の主宰するテアトロ・インプロヴィヴィゾでピアノ・打楽器演奏、経理を務める。一児の母。ご意見・ご質問等、お待ちしております！

konjacinternational@gmail.com  
www.teatrodellapergola.com

# オークランド(ニュージーランド) 個展旅日記①

西 悟

オークランド国際空港に降り立ち、冷たい風が肌を包み込んだ時、あらためてここは南半球、日本とは真逆の季節なんだと実感した。そして七年以上も前のニュージーランドからのALIT(英語助手)との出会いが、今に繋がっていることに不思議な思いに浸ってしまったのだ。

シヨン・マクドネル、ALITとして高知北高校に赴任し英語助手の仕事のかたわら、本格的なアーティストを目指し、絵を描き続けていた。彼はニュージーランドで超エリート大学、オークランド大学の美術学部を卒業し、制作活動を続けていた。そして彼自身の創作活動に新しい息吹を吹き込む

ために海外の文化に触れることは必要不可欠だと感じ、日本にやってきたのだ。

当時、私は現代絵画のグループ展「エッジ展」を企画しており、新進アーティストを探していた。ちょうどその時、高知北高校で美術を教えていた先生からシヨンのことを聞かされたのだ。さつそく彼と会い、制作途中の作品を見ながら彼と話すなかで、シヨンはかなり高いレベルの芸術性を持ったアーティストで、素晴らしい作品群を創造していることを感じ取ったのだ。そして彼に「エッジ展」へ参加の依頼をしたのが、今回オークランド、ニュージーランドで初めて個展をする最

初のきっかけとなったのである。

オークランドはニュージーランド最大の都市で、人口は一三〇万人。日本でいうと神戸のような港町とっていいかもしれない。ニュージーランドではビジネスの中心都市であり、この国の主要企業はここに集まっている。そしてニュージーランドの文化発信もここがメインとなっていて、当然優れたアーティストもこの場所に集まってきたのだ。またニュージーランドでは最優秀大学と言われる学生数四万人を数えるオークランド大学があり、そういう意味でもオークランドはニュージーランドの経済、文化、教育の中心と言われる大都市とっていいかもしれ

そのほかに貸しギャラリーといってアーティストがギャラリー空間を借りて展覧会をするシステムもあるが、欧米では貸しギャラリータイプはほとんど存在しない。ギャラリーにはディレクター(責任者)、キュレーター(学芸員)というスタッフがディーラー、コミュニティ共々ギャラリーを運営していく。ディーラーギャラリーは美術作品を売ること、ギャラリー経営を成り立たせるのだが、コミュニティギャラリーは行政、財団からの助成金、寄付金などを得て、芸術文化、芸術教育の発展、そして若手アーティストの育成も担っているのが普通である。ニュージーランドのギャラリーも欧米と同様、こういったシステムを踏襲している。

そしてノースアートギャラリーはコミュニティギャラリーに属する。コミュニティギャラリーといっても、ニュージーランド一線級アーティストの展覧会、また国際的に活躍するオセアニア、アジアのアーティストの展覧会を企画しているのは驚きであった。そしてシヨン・マクドネルが

ノースアートギャラリーのディレクター、ウエンディと面識があり、二年ほど前、私にここで作品を発表できれば良いねとメールが送られてきたのが今回の個展のきっかけとなったのだ。当時、私は漠然と展覧会が実現できれば良いかなという、ほとんど期待しない思いで作品のデータをノースアートギャラリーに送ったのを覚えている。

ところが返事は一週間もしないうちに「展覧会をやりましょう」とウエンディから驚きのゴサインが返ってきたのだ。それからウエンディと頻繁に連絡のやりとりを行い、準備期間として二年、そして土佐塾中高校で美術講師をしていることなども照らし合わせ、二〇一五年夏休み期間中の八月にノースアートギャラリーでSEI GO(西悟)展開催を決定したのだ。まだ一度も訪れたこ

とのない国のギャラリーで個展開催ということに、一抹の不安も確かにあったのは事実である。私の作品が受け入れられるのか、ギャラリーの空間にフィットするのかわかな不安要素がこみ上げてきた。とりあえずウエンディにギャラリーの見取り図を送ってもらい、そ



フェリーから見たオークランド市

れない。私の個展会場となったのが、このオークランド郊外のノースショアという地区にあるノースアートギャラリーである。

ギャラリーには大まかに言うところの種類あって、ひとつは商業ベイスのディーラーギャラリー。もうひとつは非営利のコミュニティギャラリーに分かれる。日本では



ノースアートギャラリー

れを見ながら実際の空間、雰囲気想像しながら出品作品の選定を進めていった。この作業にほぼ半年間を費やしたのだ。それでも心の中にくすぶる不安感はずいぶん去られず、ウエンディに作品画像を送りつつ、意見を何回も求めたのだ。ウエンディからはいつも「素晴らしい作品ですね！展示するのが楽しみです！」と返事がくる。私は「こちらの不安感も少しは察してくれ！」と心の中で叫びつつ、作品を褒められることに何故か次第に安心感も大きくなってきたことを覚えている。そして最後には「現地に行けばどうにかなるさ」という身勝手に楽天的な思いに落ち着いてしまったのだ。

②へ続く

にし さとる

画家・土佐塾中高校美術専任講師

# 「地域（高知）型」政策の つくり方

福田 善乙

今、高知県や県下三十四市町村は「地域（高知）型」でいくのか、「地域（高知）版」でいくのか、が問われている。

私は、自分たちの発想で、自分たちの頭で考え、自分たちの協働する力で、自分たちの未来に志を切り開いていく「地域（高知）型」で進むことを提案している。

それでは、その「地域（高知）型」をどのようにつくっていくことが必要なのか、六つの視点を取り上げたい。

第一に、当たり前のことである

している。

最近、山間部にあるという自然・環境を生かし、二〇五〇年までに町内で使用されるエネルギーを自給率一〇〇%にしようと、太陽光発電、風力発電、小水力発電、バイオマス発電など自然再生エネルギー開発に力を入れている。黒潮町は自然にある「砂浜」を生かして、「砂浜美術館」と銘打って、Tシャツアート展や漂流物展、潮風のキルト展をしている。Tシャツアート展はモンゴルやニューヨークでも実施され、世界的な活動となっている。また、砂浜でできる「らっきょう」は沖の鯨が見える場所で行えることから「くじらっきょう」として売られている。

このように、地域の宝物を最大限生かすことが大切である。

第三に、各地域にはプラス面とマイナス面、強みと弱み、良い点（優れた点）と悪い点（劣った点）がそれぞれあるが、地域づくりをするときは、プラス面・強み・良い点を中心に最大限生かしていく

が、地域の現実から出発すること、いわゆる現場主義であることが大切である。地域の現実の状態に姿を十分知り、そこから始めることである。

政策の計画を立てるとき、往々にして既成の理論を現実にあてはめることが多くあるが、そうではなく、現実をしっかりと知り、その現実から自分たちの未来の姿をつかみだすことである。いわば、現実から理論化することである。他の真似事ではなく、自分たちが現実から創造することである。

ことである。

他方、マイナス面・弱み・悪い点は改善する方向に進めるとともに、そのマイナス面をプラス面に、弱みを強みに、悪い点を良い点へ転化させていくことである。例えば、高知県の人口は転入者より転出者が多く、社会減となっており、これをマイナスとして指摘される。確かにその点はあるが、この県外へ転出する人を、高知県が県外へ人材を派遣したと考え、高知県にいる高知県人と県外へ派遣した高知県人とが力を合わせて高知県を発展させるとすれば、展望は開かれるのである。これまで転出した高知県人はその家族を加えると三百万人にのぼると推計されるからである。

第四に、政策や計画を作るときは、地域の人たちはタテからヨコへ、ヨコからマルへつながる協働が大切である。いわば、わいわいがやがやと井戸端会議の合意形成と連携をすることである。

そして、合意形成には「べき論」から「たい論」を中心に進めるこ

第二に、そのためまず地域・足元の宝物・資源の発見・再発見をし、それを最大限に活かすことである。

地域の宝物といっても多種多様である。自然や環境をはじめ、歴史・教育・文化・技術など地域の人たちが営んできたものや地域にあるもの全てが宝物である。

高知県の大きな川でも四万十川、吉野川、仁淀川があり、最近では「仁淀ブルー」が注目されている。

高知県の自然環境を見ると、森林面積割合は都道府県で全国一位、

とである。話し合いをするときに、「こうあるべきだ」「こうするべきだ」などの理念が中心の「べき論」はややもすれば建前が中心になって合意形成が難しくなる。

これに対して、「こうしたい」「こうありたい」という「たい論」を中心にして話し合うと、合意形成も容易になり、「やる気」も助勢されるのである。

最近多いワークショップ方式の合意形成もその一つの方法だといえよう。

第五に、政策を作成するときは、事例主義から脱却し、道すじ主義に進むことが大切である。

最近の政策づくりを見ると、国や大都市からの発想による事例が示され、それを模倣することが多くなっている。他の地域の先進事例は私たちが政策をつくること

の教訓やヒントになるが、その先進事例をたくさん集めても政策にはならない。それは、先進事例の地域と私たちの地域の状態が異なるからである。

私たちは地域の状態を自分たち

年平均気温第六位、年間日照時間第三位、年間降水量第五位（前年第二位）となっており、発展可能性に心踊るばかりである。

市町村で見ても、室戸市は「室戸海洋深層水」に加えて、あのゴツゴツの岩肌が「室戸世界ジオパーク」に認定され、新しい可能性を生み出している。

また、馬路村は「桃栗三年、柿八年、ユズの大馬鹿十八年」と言われ、最近では農家の高齢化で捨て置かれた「ユズ」を活かして、ポン酢しようゆ「ゆずの村」や「ごっくん馬路村」を開発している。ユズを生かし切るとして、ジャムなど加工品から最近では化粧品まで開発し、ユズ製品は三十億円を超え

るまでになっている。

梶原町は雲が下に見えるという一見すれば不利な条件を逆手にとって「雲の上のまちづくり」をしている。

「雲の上のホテル」「雲の上のレストラン」「雲の上の温泉」「雲の上のしずく（酒）」など「雲の上」をコンセプトにまちづくりを

で分析し、その中から政策をつくり、それを実現する道すじを明らかにすることである。

第六に、地域づくりの最後を決めるのは、なんとといっても「人」である。

地域に対する愛着と誇りを持つ人間をどれだけたくさん育てることができているのか、が鍵である。今は、小・中・高・大学の教育の現場で、系統的・総合的に人を育てることである。課題（問題）発見能力―課題の解決思考能力―解決への政策作成能力―政策の実行能力―実行した政策の検証能力など体系的・総合的に教育し、「生きる力」をつけ、地域に愛着と誇りを持つ人間を数多く育てることである。

ふくだ よしお

一九四一年 高知市生まれ  
高知短期大学名誉教授、(株)四  
銀地域経済研究所客員研究員。

と同年代の男性からは、殻に引っ込んだオカヤドカリを出すには両手で包んで息を吹きかける。それでも出ない場合は殻のてっぺんに少し熱を加えたと聞いた。もちろん子供時代、天然記念物への指定前のことであるが、このような例は離島を除く九州以北ではおそらくなかったであろう。

動植物の地方名は文化そのものである。本種の室戸地方での呼称は「おこぜ」「きーきー」であり(松澤, 2002), 柏島では「ほうがに」であるという(神田, 私信)。これらの呼称が天然記念物指定後に住民の口に出たとは考え難い。

さて、未確認の生息地が県内にまだ少しはあるだろうが、地域によりそこら中にゴロゴロしている天然記念物の存在を目の当たりにして、己の知見の貧弱さに呆れ果てるしかなかった。生物多様性が声高に謳われる現在、彼らをこれからどう生かし、また、どう活かすか? 県民と行政の知恵の絞り時であろう。

拙稿をまとめるにあたり、松澤圭資、中地シュウ、神田優、中西安男、渡部孝、吉川貴臣、永路小百合の諸氏に貴重な情報を提供していただき、また、和田美紗子・藤原あゆみのお二方には調査に同行していただいた。皆様に心から御礼申し上げます。

表1 高知県内におけるムラサキオカヤドカリの2015年の生息調査結果

月日	確認場所	距離 m	個体数	利用されていた主な貝	主な植生
5	25 室戸市室戸岬町ジオパーク	550	9	バイ, イソニナ	トベラ, シヤリンバイ
	27 同上	550	4	バイ, レイシダマシ	
	28 同上	550	5	レイシダマシ, ガンゼキボラ	
6	30 土佐清水市益野川河口付近	80	16	バイ, テツボラ, イボニシ	ハマゴウ
	30 大月町西泊シウラの浜	80	7	イボニシ, テツボラ	ハマゴウ
	13 室戸市室戸岬町ジオパーク*	550	69	バイ, イソニナ	
	13 室戸市室戸岬町高岡漁港敷地	100	1	レイシガイ	アロエの植え込み
	20 土佐清水市津呂	150	6	カコボラ, イボニシ	ハマゴウ
	20 土佐清水市大谷	150	7	カコボラ, イボニシ	ハマゴウ
	24 土佐清水市津津	500	1	ウニレイシ	ダンチク
	24 土佐清水市下益野開墾地	200	55	スガイ, イボニシ	ハマゴウ
	27 土佐清水市三崎港東岸	450	1	バイ	ハマゴウ
	27 土佐清水市千尋岬南端	400	17	スガイ, イボニシ	ハマゴウ
7	27 土佐清水市三崎竜串	200	10	イボニシ	ハマヒルガオ
	11 土佐清水市清水港西岸地先	450	25	イボニシ	ハマゴウ
	11 土佐清水市あしずり港奥部	500	21	イボニシ	ハマゴウ
	11 土佐清水市松崎	650	1	イトマキボラ	ハマゴウ
	18 土佐清水市千尋岬砥崎	250	6	スガイ, イソニナ	ハマゴウ
	26 黒潮町佐賀大規模公園	50	25	ククリボラ	ダンチク
	26 黒潮町井ノ岬	150	1	イボニシ	ダンチク
	29 土佐清水市布岬	500	1	ガンゼキボラ	ダンチク, トベラ
	30 黒潮町田野浦	70	15	レイシガイ, ククリボラ	シヤリンバイ, トベラ
	8	5 四万十市双海	500	2	テツボラ, イボニシ

\*室戸市教育委員会事務局生涯学習課の2名との合同調査。

#### 引用文献

- 有馬啓人, 2914. ネイチャーウォッチングガイドブック ヤドカリ. 誠文堂新光社, 東京, 223pp.  
 朝倉 彰, 2004. ヤドカリ類の分類学, 最近の話題-オカヤドカリ科. 海洋と生物, 26 (1): 83-89.  
 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会編, 2002. 高知県レッドデータブック [動物編]. 高知県文化環境部環境保全課, 高知市, 470pp.  
 久保田信, 2013. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の和歌山県白浜町海岸での幼生放出記録. 日本生物地理学会会報, 68: 121-123.  
 松澤圭資, 1977. 室戸産海岸動物図鑑. 室戸産海岸動物図鑑発行委員会, 室戸市, 126pls.  
 松澤圭資, 2002. オカヤドカリ (オカヤドカリ科). 高知県教育委員会文化財保護室編, 土佐の動物たち (天然記念物), pp. 25-26. 高知県教育委員会文化財保護室, 高知市.  
 松澤圭資, 2014. 室戸半島産海洋無脊椎動物・海藻目録, 95pp. 西村謄写堂, 高知市. (自家本)  
 中地シュウ, 2009. 黒潮生物研究所周辺で見られるオカヤドカリ属について. CURRENT, 10 (2): 2-3.  
 追補 室戸産のナキオカヤドカリとされていた種がムラサキオカヤドカリであることが本年1月12日に公表された以下の文献で示されました。  
 松澤圭資, 2016. 室戸半島産海洋無脊椎動物・海藻目録 改訂版, 97pp. 西村謄写堂, 高知市. (自家本)

## 高知県のムラサキオカヤドカリ覚え書き (II)

### Notes on a terrestrial hermit crab *Coenobita purpureus* in Kochi Prefecture (II)

町田 吉彦

ジオパーク、土佐清水市、大月町の生息地を回り、タイドプールがあること、急斜面の下に植物群落が発達していることがこれらに共通と考えた。めばしい海岸を歩くしかない。夜行性だが彼らは昼も意外に動く。ただし、平板状の礫や流木の下、岩の隙間に潜んでいることもある。もちろん相手は天然記念物。植物群落の縁を歩き、中に入って踏み荒らすことは避けた。

発見した個体はすべて写真撮影した。このため、個体数が多いと時間がかかる。そこで、個体数と歩いたおよその距離を記録することにした。その結果を表1に示す。神田(私信)によれば、大月町柏島で2015年6月4日の深夜に2個体が確認されており、同町の西泊では浜を歩いている個体がいるという(中地, 同年6月15日私信)。さらに大月町の壱西と泊浦にも多いとの情報が寄せられた(永路, 同年8月26日私信)。このように、私信を含めて3市2町の24カ所に本種が生息していることが判明した。

植物群落の縁を観察しただけなので、実際は表1の数値をはるかに上回る個体が生息していたことは疑いない。天気との関係もありそうだ。6月13日には以前から存在を知っている地元の2人が仰天するほどの多くの個体が確認された。最小の個体は殻高10mmのゴマフニナを利用して松崎の個体と、同じく殻高10mmのサラサバイを利用して益野川河口付近の個体である。一方で、大形の貝であるバイ、イトマキボラ、ククリボラ、ガンゼキボラを利用して個体も多かった。また、サザエを利用してケースが2例あり、黒潮町佐賀の個体は2013年7月31日に渡部・吉川(未発表)により撮影された個体とおそらく同一で、これらの大型の貝を利用して個体は複数回、越冬を経験しているのは確実である。

紀伊半島南部は海洋生物相が豊富で、幼生が黒潮で運ばれてくることに関連しているとされる。朝倉(2004)によれば、本種は和歌山県の印南町、田辺市、白浜町で発見されており、白浜町では越冬個体もいるが、分布の北限に近い白浜町での再生産による集団の維持はない。同様に久保田(2013)は、白浜町で幼生の放出はあるが、幼生は無効分散になると報告している。高知県で注目すべきは中地(2009)の指摘、すなわち、シウラの浜で多数の抱卵個体が確認され、自然繁殖が確実という見解である。シウラの浜と同様のことが県内の他の生息地でも起こっており、幼生が広く分散していくことが白浜町との大きな相違点であろう。高知県内における生息地数の多さは、幼生が自己のみならず、県内はもちろん県外の集団にも加入している可能性を示唆する。

土佐清水市の開墾地(バス停の名称)の海岸で筆者と同年代の地元の男性に話を聞く機会があった。彼が小学生のころ、浜は遠足の目的地であり、本種を捕まえては大きさを自慢しあったとのこと。今は訪れる人は筆者のような変人以外は皆無だが、おそらく1950年代の半ばあるいはそれより前、すなわち、天然記念物指定以前に県民と本種との接点が郡部であったのである。大月町柏島のこれまた筆者



図1 枯れた低木に登っている個体。バイはよく利用されている(2015年5月30日, 土佐清水市)。



図2 高知県で唯一記録された歩行の痕(2015年8月5日, 四万十市)。

まちだ よしひこ

プロフィールは第189号に掲載された(I)を参照。



伊藤キム氏が十年の沈黙を経て新たに立ち上げたフィジカルシアターカンパニーGEROの高知プロジェクトが一月二十六日に始動、公募で選出された二十代から五十代までの地元メンバー男女四人が三十日までの五日間、伊藤キム氏のワークショップを受講、途中合流したカンパニーGEROのメンバー三人とともに、三十一日「身体と言葉の波動」なる作品をかるぽーと小ホールで発表しました。

## 高知GERO活動プロジェクト

ルで発表しました。

公演本番は、ステージとも客席ともいえない空間に演者が静かに現れ、そして突然、観客は奇妙な観察の視線にさらされ、だれにもなく発せられる言葉に心を揺さぶられるところから幕が上がりました。次々と繰り出される言葉と動き、淡々と語られる個々のエピソード、どこかで協調しそうで、まったく交わらないその距離感に現代の社会現象を重ね合わせて見た人もいたようです。

当日は、ダンス・演劇関係者をはじめ出演者の知人など、十数年ぶりとなる伊藤キム氏の作品をみようとする多数の観客が来場し、息をひそめ、耳を傾け、舞台に目が釘付けになっていました。

その後行われたアフタートークでは、観客から、様々な意見、感想が出され、出演者は場面や動きを説明し、そこに込めた思いを語りました。伊藤キム氏は最後に、「地方プロジェクトを行うことについて」「地方の人たちとかかわることが、自分たちの血となり肉となる。地方の人たちには私たちがとかかわること、刺激を受け、気持ち豊かになってもらえれば」と語りました。あつという間だったような、異常に長く感じられるような、不思議な約一時間の公演でした。

(入場者数・八十名)

### 高知市文化振興事業団 出版物のご案内

#### 高知の森林



#### 高知の森林

高知県緑の環境会議 森林研究会 編

一山の「歴史」が見えてくる。自然は土佐の宝ぞよ！

高知の代表的な山と森林をつぶさに探訪し、残されている貴重な自然や植生、森林と人々とのかわりの歴史、現地への道のり等を紹介。(平成二年刊)

価格 2,621円 (本体価格 2,427円 + 消費税)

読み物から研究書まで。地域の芸術・文化に関わりの深い書籍たち  
高知市文化振興事業団出版物 詳しくはホームページまたは088-883-5071へ

## 「0歳からの音楽コンサート・かるぽーとスペシヤル」

「泣いても騒いでもOK!」  
「子育て応援ZEROSA I」の「0歳からの音楽コンサート」のキャッチフレーズです。

子どもは元気が当たり前。泣き声、楽しい声があつて完成するイベントなのです。音楽や物語に直接触れさせ感性を育みたい、ママやパパも生の音楽を楽しみたい、そんな子育て家族に人気の0歳コンサートが大きなホールで楽しい映像もいっぱいあるスペシャル版になったとあって、前売券は完売し満員御礼に。

第一部は高知フライデー・ウインド・アンサンブルの演奏。歌のお姉さんやおなじみのキャラクター達も勢揃い。トナカイもステージに駆けつけたのだけれど、サンタさんは？なんと途中ではぐれてしまったよう。でも大丈夫。かるぽーとから聞こえる子ども達の歌声に導かれ二階席からサンタ登場！無事一緒に歌って踊つてのコンサートになりました。

第二部は劇団「シャカ力」



出演の音楽劇「ももたろう」。大人向けのギャグもありの、みんなが楽しめて大満足の構成です。シャカ力俳優陣の怪演が光るわるい赤鬼・青鬼は、「かるぽーと村」でやりたい放題。ちよっと気弱な桃太郎は、雉・犬・猿と子ども達から歌の力をもらって最後には勇敢に鬼を成敗することができました。もちろんその後はみんな仲直り。全員の合唱で締めくくりました。

(二〇一五年十二月二十三日、かるぽーと大ホール 入場者数・八百七十名)

## 第十回 Concourses des Tableaux 企画展

### 「上島豊正展―巡回するノスタルジー―」

二〇一五年一月に行われた第十回美術作品コンクールにおいて、最優秀賞を受賞した上島豊正さんの個展「上島豊正展―巡回するノスタルジー―」が、二〇一六年一月十二日(火)～十七日(日)、高知市文化プラザかるぽーと市民ギャラリー・第五展示室で開催されました。

今回の個展は「群衆」をテーマに、油彩や土佐漆喰を用いたフレスコ画など十点を展示。鮮やかな色使いで酒場やよさこいをモチーフに、表情豊かに描かれた人物や彼の作品の特徴とも言える、気や時間の流れを表した、波状模様が画面全体にひしめき合い、人々が熱気を帯びて興奮する様子を描いた作品が並びました。

また会期中には会場で土佐漆喰フレスコ画を制作。最終日には百名近い観覧者の中、女流義太夫の竹本美園さんに



よる情念溢れる浄瑠璃語りと波や人のざわめきの音に合わせて、その作品に波状模様を描くライブパフォーマンスを行いました。

「今後は高知県内の色々な祭などにも足を運び、各地の文化を体感しながら作品を作っていきたい」と話す上島さん。画家としての今後の活躍がとて楽しみみです。

(入場者・延べ六百二十七名)

豊中市発 沖縄市・高知市連携演劇プロジェクト

[PORTAL]



林慎一郎 × 松本雄吉 × 山中崇

踊ろう、朝まで。この地図で一。音と身体で地図を描く、都市の現代神話

2016年3月20日(日) 14:00 開演  
高知市文化プラザかるぼーと小ホール  
全席自由 前売り 2,500円 当日 3,000円  
高知市文化振興事業団 088-883-5071

風俗

私も間違っていたかも知れない

変わっていない。去年の六月に発行されご存知の方も多と思うが、デービッド・アトキンソン氏のズバリ『新観光立国論』である。県でいえば「観光立国論」である。詳しくは本を読んでもらうとして、ここでもっとも重要なのは、これまでの観光施策を根底から否定し、新たな観光論を展開している点である。

ある日、A店のY氏と話をしていると、ある本を紹介され、その内容に衝撃を受けた。私はこれまで、観光を目的にしていた。理由は、観光客を相手にする地域や店はサービスも心も荒んでいくように思えるからだ。なぜなら観光客はほとんどが繰り返し訪れない、いちどつきりの一見さんであるから。衝撃を受けたいまでもその考えは

第32回  
写真コンテスト  
「高知を撮る」  
入選作品展

このコンテストでは、毎回「高知」をテーマにした写真を募集しています。

今回は「記録写真部門」と「I LOVE 高知部門」にご応募いただきました308点の作品の中から、審査で選ばれた特選4点、準特選19点を含む、入選作品69点を展示します。

ぜひご来場いただき、過去から現在に至るさまざまな高知の写真をお楽しみください。

■日時  
3月15日(火)~20日(日)  
10:00~17:00  
※15日10:00より表彰式を行います。

■会場  
高知市文化プラザかるぼーと  
7階市民ギャラリー・第4展示室

■入場料  
無料

■お問い合わせ  
高知市文化振興事業団 088-883-5071

今号の表紙

「新入生」 大崎 春香  
少し表情がかたく緊張している白くまの新生と白くまの手を取り、友達になるうよ！とさそっている女の子。  
はじまりの季節をイメージして描きました。

(おおさき はるか/  
国際デザイン・ビューティカレッジ1年生)



高知を撮る

気合い

(平成22年宿毛市中央)

野口 務

第31回写真コンテスト入賞作品

アメリカの戦艦が入航した時の歓迎セレモニーのひとつコマです。真剣の演技を興味深そうに見つめる海兵隊員が印象的でした。

東西トイレ事情



風俗歳時記

いきなりトイレ!?の話ですいません。新しい年を初めて海外で迎えた我が家。とは言っても、すぐお隣の上海。中国のLCCを使った激安ツアーだったので、日本で正月を過ごすのとは変わらないうらいの経費で上海の新年を迎えられた。パブルがはじけるまでは、公私ともに年一、二回海外には出かけていたのだが、景気も冷え込みすっかり海外はご無沙汰している。久々の海外にワクワク。ところが...

でもいいのに缶バケツが妙に気になる。溢れかえる紙が、「早く捨ててー」と主張しているようだった。もちろんウォシュレットはなし。日本では、ウォシュレットがスタンダードになり、近頃は便座を離れただけで水が流れ、蓋を開け閉めしなくても自動で閉まってくれるものも。これが当たり前と思っていたら大間違い、日本独自の素晴らしい技術なのだ。わずか四日間だったが、帰国直後、清潔でウォシュレットがあつて、紙の流せるトイレに感動した。日本はやっぱ素晴らしい。東南アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ；それぞれ別の国によってトイレ事情は様々だが、私が訪れた少なくとも二十ヶ国余りの国の中では日本が一番。たかがトイレ、されどトイレ。旅でトイレを経験するだけでも文化と生活の違いが見えてくる。(立花香)



2013年初演! あの4人が3年ぶりに帰ってくる!!

# OFF BROADWAY MUSICAL Forever Plaid フォーエヴァープラッド

Written and Originally Directed and Choreographed by  
**STUART ROSS**  
Musical Continuity Supervision and Arrangements by  
**James Raitt**  
Originally Produced by  
**Gene Wolsk**

高校の同級生で、夢に燃えた若い4人のサウンドグループ。  
ある日、彼らは最初のビッグショーの会場に向かう途中で、不運にも交通事故に会い、4人全員死亡してしまう。  
そんな彼らが夢と消えてしまった自分たちのショーを実現するため、一晩だけ奇跡的に地上に登場!  
フランシス(川平慈英)、ジックス(長野博)、スパーク(松岡充)、スマッジ(鈴木壮麻)が再びマイクをとる!!  
抜群に美しいハーモニーと楽しくやんちゃな会話、ちょっぴり可笑しい振付と、4人の音楽への情熱に溢れた暖まるミュージカル。



FRANCIS

JINX

SPARKY

SMUDGE

### CAST

川平慈英 長野博 松岡充 鈴木壮麻

NARRATION ジョン・カピラ

BAND Everly(松尾賛之 松尾悟郎 小向忍)

作=スチュワート・ロス 翻訳=小田島恒志 訳詞=高橋亜子 演出=板垣恭一 音楽監督=岩崎康

美術:中村公一 照明:奥野友康 音響:中島正人 衣裳:関けい子 ヘアメイク:平野仁美 振付:本間実一 歌唱指導:大嶋吾郎 演出助手:元吉康泰 舞台監督:村田明  
舞台製作:クリエイティブ・アート・エンターテインメント 加賀谷吉之輔 宣伝美術:永瀬祐一 宣伝写真:西村淳 制作:相見真紀、渡辺英、七字紗衣 プロデューサー:江口剛史  
企画・製作:シーエイティブロデュース

2016年5月11日水 18:00開場  
18:30開演

## 高知市文化プラザ かるぽーと<大ホール>

【料金】全席指定 ※未就学児の入場はご遠慮ください

・前売り S席(1階・2階)6,500円 A席(3階)5,500円  
・当日 S席(1階・2階)7,000円 A席(3階)6,000円

【チケット発売日】 2月20日(土)

【チケットの取り扱い】

- ・かるぽーとミュージアムショップ ..... 088-883-5052
- ・高知新プレイガイド ..... 088-825-4335
- ・高知大丸プレイガイド ..... 088-825-2191
- ・高知県民文化ホール ..... 088-824-5321
- ・高知県立美術館ミュージアムショップ ..... 088-866-8118
- ・ローソンチケット ..... Lコード:65202

「Forever Plaid」  
公式ホームページ



【主催・お問い合わせ】

公益財団法人高知市文化振興事業団  
電話:088-883-5071  
<http://www.bunkaplaza.or.jp>



"Forever Plaid is presented through special arrangement with Music Theatre International (MTI). All authorized performance materials are also supplied by MTI.  
421 West 54th Street, New York, NY 10019 USA Phone: 212-541-4684 Fax: 212-397-4684 www.MTIShows.com"